

育ネットつなん

津南町教育委員会

育ネットつなん事務局

GIGAスクール構想について

津南町教育委員会

教育長 桑原 正

昨年11月、文部科学省が「GIGAスクール構想」を立ち上げました。GIGAスクール構想とは何か。文部科学省資料には次のように示されています。

『一人一台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を要する子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する。』

『これまでの我が国の教育実践と最先端のベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。』

これは、学校教育にICT（情報通信技術）を最大限導入し、学習活動の一層の充実や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図ろうという構想です。

津南町は、コロナ禍の中、国の前倒しの計画に乗り整備を進めました。9月には、小中学校4校に体育館を含む全普通教室と特別教室の一部に高速無線LANの整備を完了しました。タブレット端末もすでに業者に納入され、現在、使用できるように調整中です。12月中に準備を完了し、各校に配布する予定です。

タブレット端末を1人1台配布することは、子供たちの学習意欲を高め学力を向上させるための方法であって、目的ではありません。目指す教育を実現するには、教師も子供たちもICTを活用した学習をできるところから始め、経験を積み重ねながら習熟していくことが何より肝要です。まずは機器の使い方に慣れること、そして、先進的实践事例から学ぶことも大切です。

新潟県立教育センターでは、今、全学年、教科ごとのモデル授業を考案し、動画を作成中とのこと。大いに活用できるものと期待しています。こうして実践を進めながら、一斉学習、個別学習、協働学習等学習場面における効果的な活用の仕方、小学1年生から中学3年生までの子供の発達特性に即した活用の仕方等について研修を深めていきたいと考えています。

当町は、今後も学校現場と一体となってGIGAスクール構想を進めることで、学校教育を新たなステージへと前進させ、科学技術が一層進展した未来社会を、たくましくしなやかに生き抜く子供を育てていきます。

(参考)

GIGA = Global and Innovation Gateway for All

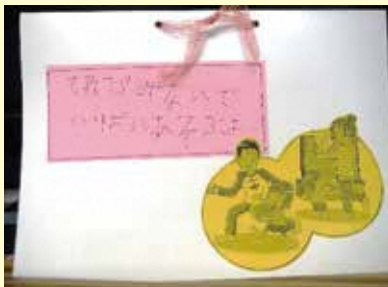
ICT = Information and Communications Technology

LAN = Local Area Network



「ノーメディアデー」の取組み

毎月19日の「育の日」に町立保育園では、ノーメディアの取組みを行っています。各保育園ごと、工夫を凝らした取組みを行っておりますが、今回は、ひまわり保育園での取組みの様子をご紹介します。また、各家庭で育ネットの取組みについての感想や工夫している点など、あわせてご紹介いたします。ご家庭での取組みの参考にしてください。



「育の日」の前に目標カードをお家に持ち帰り、テレビ前や家族の目の届くところに置きます。



目標が達成できたら好きなメダルを選びます。
『どれにしようかな～』

目標達成！
次も頑張るぞ！！



育ネットの取組みの工夫と感想

- ・ テレビを見ない日を不自然な我慢にならないよう、ダンボールや牛乳パックを使った遊びをして楽しい時間を過ごせるようにしている。本人の頭を使った遊びにするとテレビのことも忘れていきます。
- ・ 家族と家事を協力して子どもが寝る時間を早くできた。
- ・ 会話が増えてよかった。
- ・ 普段から、メディアには気をつけている。
- ・ チャレンジコースがあることで、「何かすることない？」と聞いてきてお手伝いをしてくれるようになった。
- ・ ノーメディアの日は、家族皆で協力し合ってノーメディアができた。
- ・ ノーメディアの朝にTVの前に「見ないよ！」ボードを置くと、起きてTVを見ようとしても「ノーメディアだった！」と思い出せる。一度置き忘れたことがあり、前日の夜に置くことも。
- ・ ノーメディア以外でもちょっと声をかけるとお手伝いをすすんでしてくれるようになった。
- ・ ノーメディアの日は、子どもが中心になり、家族に「今日は、ノーメディア！！」と言うようになり、意欲的に取り組んでいる。
- ・ ノーメディアの日は、親子でいっぱい遊べてよかった。祖父母の協力ありがたい。
- ・ 早寝やノーメディアなどは、子どもだけでなく、家族でも声をかけ合って取り組んでいる。



町立保育園「わくわくキッズ」 年長児交流会

津南町立保育園の年長児は、春と秋の年2回、総合センターを会場に交流会を行っています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で春の交流会は中止となりましたが、秋にはできる限りの感染症対策をして交流会を実施しました。

交流会は、同年齢の子どもたちが大勢いることを知る機会となり、ゲームなどで新しい友だちとふれあうと子どもたちの表情が和らぎ「がんばって!!」と声を掛け合う姿がみられました。大勢の友だちと遊ぶ楽しさやダイナミックさを感じて、子どもたちからは「たのしかったね。」「また、あそびたい。」という声が聞こえてきました。

今後も、保育園ごとに交流会を行い、仲間づくり、友だちづくりを進めていきたいと考えています。



ダンス



縄とび




リレー

あなたらしい子育てを、人との関わりとともに



福祉保健課 主任保健師

(教育委員会兼務) 星名 由紀子 

少子高齢化が全国の何年も先を進む津南町は、住民の方から「近所で子どもの姿を見ることが少ない」という声を多く聞きます。地域に点在する子育て中の家庭をどう繋ぐか町の課題になっていました。このことから町では、子育て支援手法として全国展開しているBPプログラム・NPプログラムに取り組むことになり、毎年開催を続けています。

1. 「親子の絆づくりプログラム “赤ちゃんがきた!”」 (通称：BPプログラム)

初めて子育てを行う第1子(2～8か月児)の母親の交流により、育児不安やストレスを軽減し、『親子の絆』を深める関わり方を学習しています。

特に、知り合いの少ない町外出身の母親には「公園では誰にも会えず、赤ちゃんを見ることができてうれしかったです!」「親子で友達ができました♪」と好評です。



2. 「Nobody's Perfectプログラム」 (通称：NPプログラム)

1～3歳児の母親を対象にグループワークを通して子どもの健康や安全、しつけなどを学びながら親同士のつながりを深め、日頃から相談し合える関係をつくっています。『完璧な親なんていない』を合言葉に、はじめから一人前の親はいないこと、皆がまわりからの助けを得ながら親になっていくことを伝えています。

私自身の子育てを振り返ると、家庭内の協力はもちろんですが、周囲の人との関わりが大きな支えとなっていたように感じます。10年も前の話ですが、私が子どもを家族にみてもらい、近くの店に買い物に行った時のことです。近所のおばあちゃんに「今日はひとりかい? おごるすけ、たまにはアイスでも食べて行かぬかい。」と声をかけられました。店先のベンチでアイスを食べながら、初めての育児で息詰っていた気持ちが「ふっ」と軽くなったことが忘れられません。また、あるおじいちゃんは子どもにと、大きなカブト虫や初採りのイチゴを届けてくれたこともありました。子育てをする家族形態や環境は様々になり、“この方法が正解”ということは少なくなってきました。保護者の皆さんが、いろいろな人との接点をとおして、日々悩みながらも“自分らしい子育て”に自信を持てるようになることを願っています。



『あいさつ運動』の広報無線について

津南町では、毎月10日を『あいさつの日』としています。10月から2月まで「あいさつの日」を前に夕方の広報無線で保育園、小中学校、中等教育学校の児童生徒の声をお伝えしています。町ぐるみの子育て、町ぐるみのあいさつ運動を進めていくために、子どもたちの声で町民の皆様呼びかけいたします。